

2025年1月1日 新年の挨拶

一般社団法人全国手話通訳問題研究会  
会長 渡辺 正夫

新しい年を迎えられた皆さま一人ひとりにとって素晴らしい一年でありますよう心からお祈り申し上げます

さて、2024年は全通研にとって記念すべき年でした。全通研創立50周年記念の式典及び祝賀会は、会員をはじめ関係者の皆さまのご協力のお陰で素晴らしい時間を共有することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

キャッチコピーである「50年の絆その先へ 歩み続ける全通研」のとおり先輩たちが築いてこられた歴史を大切にしながら、新たな歴史を刻むため多くの仲間とともにこれからも歩んでいきましょう。

全通研は、2024年度代議員会として2つの特別決議を公表しました。1つは未だに続いているウクライナとガザ地区の戦争について、もう一つは優生保護法による最高裁の勝訴判決についてです。

2つの問題の根底には、人権の問題があります。戦争はあらゆる人々の日常生活を奪うことになり、平和の尊さをあらためて感じさせられました。そして、優生保護法裁判で明らかになったことは「障害のある人を劣った存在として社会から排除していた優生思想はまだなくなっていない」という事実です。

さらに、手話を取り巻く環境は日々大きく変化しています。手話言語条例の制定が各地に広がり、差別解消法では合理的配慮が民間事業者にも義務化され手話通訳の派遣依頼が増加しています。

また、自然災害が繰り返される中、リアルタイムで正確な情報保障が受けられるよう強く求められています。聴覚障害者のコミュニケーションや情報保障をとおした豊かなくらしと、安心して手話通訳や手話通訳活動を担うことができる制度の実現をめざしましょう。

2025年は、手話通訳者の労働の実態から手話通訳制度のあり方を把握する大事な調査が行われる年です。今後、私たちがしなければならない課題は何かを明らかにする調査でもあります。皆さまにご協力をお願いいたします。

そして、いよいよ東京2025デフリンピックの開催まであと318日になりました。地域のろうあ協会と協力して、このデフリンピック開催をとおして共生社会の実現に向けてみんなで取り組んでいきましょう。

今年は巳年です。へビは脱皮を重ねて成長するので「復活と再生」を連想させ、不老長寿や強い生命力に繋がるといわれています。

全通研は研究・運動団体であることを再確認し、私たちがこれまで築いてきた全通研の活動をより充実・発展させていきたいと考えています。共に前進していきましょう。